

## 【釜石通信】池田亨司祭発

## ◎6月6日(月) 晴れ

午前：海老原、仮設住宅へ訪問。何人かの入居者に話しかけ、現在、困っていること、必要としている物等、を聞く。これから暑くなるため、生ごみの対策として、蓋がロックできるゴミバケツが欲しいなどの情報等を集める。池田、午後に、配る食器の洗浄。高級な洋皿であったが、汚れとカビ等がある食器があったため。

午後：仮設、駐車場にて、支援物資（食器を中心に）に配布する。高齢者が入居者が約十数名来られ、ダンボール6箱分中5箱分を配ることができた。※仮設住宅について：教会の近隣に位置する仮設であるが、正式名称は「上中島応急仮設住宅」と言う。新日鉄釜石の総合グラウンドに建つ。一棟6世帯分の長屋が31棟、その内1世帯分の空間が集会室。185世帯が入居する。立地条件は、市街地であり、道路を挟んでスーパーマーケット、ホームセンター。

## ◎6月7日(火) 晴れ 日中気温30度を越え、この年はじめての真夏日

午前：海老原、仮設へ訪問。立ち話を通して、今の気持ち・思いなどを聴く。ニーズとして小さい脚立、大工道具、大工仕事などが上がった。

午後：大船渡カトリック教会に司牧の支援に来ている塩田希神父を訪問。特に、大船渡のフィリピン人信徒、その多くは日本人と結婚した女性の状況など聞く。教会に電気・水道が3日前に開通したばかり。塩田神父の案内で、大船渡市、陸前高田市の被災地を車で走る。

## ◎6月8日(水) 晴れ

午前：池田、幼児学園の礼拝奉仕。海老原、子供たちと折り紙。（この折り紙を配布予定の小分けした米に添えるため）

午後：海老原、仮設訪問。集会所にて地域のボランティアと懇談し情報収集。現段階では自治の運営が行われておらず、情報の格差が広がっている模様。回覧板などの活用や細かいコミュニティ作りを市に提言する事で意見集約。また住民よりごみのトラブル、車の止め方のトラブルが多数聞かれた。大工仕事のニーズが高いのだが、市のルールで勝手な改修などは禁止されているとの情報があり確認中。収納スペースが少ないため、空間を有効に活用したいという発想は当然だと思う。また床に置いているご位牌をおく棚が欲しいという意見も聞かれた。

## ◎6月9日(木)

午後：釜石市唐丹（とうに）町の本郷・花露辺・大石の各集落を訪問。本郷は支援物資の仕分け作業中であり、挨拶をかわし、今必要としている物資等をお聞きする。洗剤・生鮮食品等が欲しいとのこと。花露辺は、すでに避難所が閉鎖されており、だれとも会うことができなかった。大石においては、地域センターにてちょうど集会中、地域のみなさんに挨拶ができた。その際、みなさんから、これまでの支援に対して感謝のことばをいただいた。大石において被災された方々は支援物資を均等に分けているとのこと。その原則を守っていることをお聞きした。やはり、ここでも本郷とおなじような必要を聞く。

## ◎6月10日(金) くもりのち雨

午前：市原信太郎司祭（立教中高チャプレン）の訪問を受ける。市原司祭、立教中高生ボランティアを受け入れることが可能か？相談を受ける。園長、盛岡出張で不在のため。話だけ聞く。その後、市原司祭の友人のNPOの関係者を交え、支援物資配付に伴う、プラス・マイナス面を聞く。海老原の案内で、市原司祭、仮設住宅を視察。

午後：2時。仮設住宅駐車場にて、夏物衣類を中心に配付する。時間を予告していたため20数名の方々が事前に集まっていて、5分ほどで終了する。6時。日本キリスト教団釜石新生教会のボランティア・コーディネーターの柳谷信吾さんの訪問を受ける。新生教会の取り組み、およびこれからの課題等を聞く。「生活において不自由・不足のなかに、大切なことを発見し、

満たされる」。信仰的に物事を捉える言葉を聴きながら、その経験を分かち合う。

◎6月11日(土) くもり

午前：海老原、仮設住宅訪問。月命日であり震災後三ヶ月の区切りの日であるこの日にお花を配る予定にしていた。できれば大事な人を失った人にお花を差し上げたいので、調査を兼ねて顔見知りを訪問。いくつか情報を得るが、場所がわからないなど不確定な情報が多い。まだ誰がどこに住んでいるかわからない人が多いようだ。

午後：1時。池田・海老原、仮設訪問。お花を12束用意し、家族を亡くした世帯を訪問。あまり話しはせず、お花を差し上げて帰る。3時。海老原、遠野へ支援物資購入(夏物の帽子、脚立、ポリバケツ)。池田、主日説教準備。

◎6月12日(日) くもりのち晴れ

午前：9時。海老原、仮設訪問。簾と棚の取り付けの依頼を受ける。また昨日お配りしたお花のお礼を言われる。お花の好きな方は多く、慰めになっているようだ。10時30分。聖霊降臨日聖餐式。出席者総勢7名。カトリックのシスターも参加されエキュメニカル・サンデーにふさわしくお祝いする。礼拝後、出席者の高橋理事長夫妻と高橋園長、および精神科医・北川恵似子さん(札幌聖マーガレット教会客員)、シスター真木栄子さん(カロンデレットの聖ヨセフ女子修道会)と懇談。仮設住宅の独居高齢者の情報を交換し、こころのケアの必要を考えている地元の宗教者を紹介していただく。

午後：3時。池田・海老原、仮設訪問。朝に依頼を受けた独居高齢者を訪ねる。二人で苦戦しながら簾と棚を取り付ける。その後近所の高齢者も加わりお茶を頂く。昨晚の冷え込みについて聞く。やはりカーペット等の必要性を再認識する。仮設入居に伴い崩壊していた人間関係が蘇り始めている。以前暮らしていた集落の友人知人が仮設内で再開しているようだ。互いに訪ね合い行き来する姿が増えている。小さなグループやコミュニティができつつあり、孤立化の防止に繋がると思われる。しかし本当に孤立している人はまだ存在しているのだろう。

夕：高橋理事長奥様の差し入れ「鯛の煮付け」でペンテコステの夕食をいただく。

◎6月13日(月) くもりのち晴れ 夕方雷雨

午前：10時。池田・海老原、仮設の一人暮らしで塞ぎこんでいる方宅への訪問。その方のところに、仮設に住む友人が訪ねていて、いっしょに30分ほどお話を聞く。鶴住居で近所であったとのこと。「じいさん(夫)の位牌を(津波で)流してしまい、申し訳ない」と涙ぐむ。ただ、ただ、傾聴する。ほか、ゴミ用蓋付ポリバケツを必要としている方、脚立を必要としている方のもとに届ける。

午後：高木泉さん(深川聖三一教会信徒・大学4年)、来釜。高木さんは今月末からアイルランド・ダブリンで開催のGFS世界大会へ日本代表として参加される。そのため、被災地に直接足を運び、その目で見たい旨を受け、今回の来釜石となった。海老原が、フランシス号(軽四駆)を走らせ、釜石市街地、鶴住居、大槌町市街、陸前高市、大船渡市地等の被災地を案内。

**【支援室の活動】** 6/8 支援室事務局会。6/9~10 日本聖公会震災支援運営委員会(仙台)に植松主教・大町司祭が出席。6/11 震災犠牲者追悼レクイエム(仙台基督教会)に植松主教出席・説教。6/13・6/14 支援室事務局会

**【次回支援室会議】** 6月20日(月) 午前10時~ (聖マーガレット教会)

印刷・製本作業があり、人手があると大変助かります。

**【震災支援室より】**

◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。

ニュース定期便のバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページに入り、「東日本大震災について」(アカ字で表示)をクリックすると見る事ができます。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

**【連絡・問合せ先】** 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nsskk-hokkaido.jp